



大きく葺き下ろした屋根と中庭を囲っている板塀がこの家の外観的な特徴になっている。どちらも内部空間や暮らし方から発想された形のため、変化はあるが無駄のない形にまとまっている。

プラスαの暮らしをつくる



広間は屋根裏空間を利用してダイナミックな吹抜けになっている。キッチンや本棚、ソファコーナーなどの位置関係を検討し、それぞれの場所が心地よくつながるように考えた。

敷地に合せた 広がりと変化

住み慣れた土地に建て替える方と比べ、新しい土地に新築される方は大きな不安があると思います。地域の風習や近所のおつきあいはじめ、一年を通しての風向きや日当たり、また、周辺の音や視線などにも気になる要素のひとつです。住み慣れた場所であれば四季を通しておおよその見当がつかますが、新しい土地ではすべてを予測するのはなかなか難しいものです。ですが、要望だけで安易に計画をしてしまったのでは取り返しのつかない事にもなりかねないので、要望と合せて敷地条件などを十分に検討していく事が大切だと思います。

『芽吹きの家』のKさんが選んだ敷地は藤枝市の旧市街地。幹線道路から少し離れた土地で、新旧の住宅が立ち並ぶ静かな住宅地です。少し密集している場所であれば近くに大きな敷地のお宅もあり、私の第一印象は色々な表情のある場所だと感じました。中でもKさんの敷地の道路向かいにある柿の木畑が印象的で、私が初めて訪れた季節は濃い緑色の葉がとても綺麗でした。借景ではありますが、この風景を室内から眺められたら気持ちいいなと思った事を今でも覚えています。

敷地は綺麗な長方形ですが真南が45程度西側に振れていて、東南側には大きな2

完成現場報告

藤枝市／『芽吹きの家』

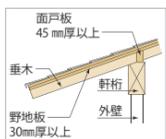
文・写真／コロポ 山崎健治

新年が明けお正月が来たと思ったらあっという間に2月も半ば。月日が経つのは本当に早いですね。今からちょうど一年前の2月に建前を行った『芽吹きの家』のKさんのお宅も昨年6月の完成から早8ヶ月が経過し、夏、秋、冬の季節が過ぎました。土地探しから家づくりをスタートされたKさんご家族、住み慣れた地域から少し離れた場所と言う事と、今までとは全く違う新しい家と言う事で引越当初は少し不安と話されていましたが、季節の移ろいと共に新しい暮らしにも慣れ、木の家暮らしを楽しんでいたように安心してました。

階建てのお宅があり、日当たりと視線が少し気になるかもしれないと感じた敷地でした。敷地の形に習って間取りを組み立てたのでは日当たりと視線が気になるし、方位を重視して間取りを考えると敷地に對して無理があり無駄も生まれると思いはばらくの間悩みました。視線や日当たりと合せて駐車スペースや玄関の場所、寝室や水廻りの位置をあれこれと考え、最終的に広間の一部に斜め壁を設ける事で解決の糸口を見つけました。たった一カ所の変化ですが、向かいの家からの視線を外しつつ窓を南向きに合わせる事ができます。またキッチンや広間からの視線にも広がりや変化が生まれ、窓越しに設けたデッキスペースと共に明るく楽しい場所になったと思います。木組みの家にとって斜め壁は少し難しい加工が必要になりますが、構造を現しつつも無骨な姿を見せないように工夫し、スッキリとした空間ができ上がったと満足しています。

↑ 準防火地域で木の家をつくる。

今回の地域は準防火地域に指定されています。この地域では外の火災に対して30分以上内部に火が入らない仕様にする必要があります。不燃材と呼ばれる建材を使えば簡単ですが、無機質でどこか味気ない外観になってしまいます。外壁は通常の仕様で問題ありませんが、軒裏に木を現して作るためには厚い板を用いて簡単に火が室内に入り込まないように工夫して作る必要があります。専門家の研究も進み、新しい構法の開発で木の家もどんどん進化しています。



今回の敷地は真南が45度ほど西に振れている事から暖かく明るい光を取り込むために広間の窓位置を方位に合わせて斜めに配置。また窓を斜めにする事で室内からの視線も変わり、住宅地ではあるが空を望める開放的な景色を得る事ができました。



2



1

和室は毎日の生活の中で多目的に利用できるように考え、広間や玄関とのつながりを重視して配置しました。また、視線的な広がりを持たせるために広間と和室の空間を区切らず一体とし、開放感のある内部空間となりました。



3

く暮き下ろした屋根が特徴の少し個人的な木の家ができました。
 L型プランの中心に位置する中庭には、デッキや室内への視線を避ける目的で少し背の高い板塀を設けました。板塀は適度に風を通すために隙間が空いていますが、外からの視線をカットしてくれるため、大きな窓があるにも関わらずプライバシーの高い中庭になりました。また、大きく暮き下ろした屋根の中に多目的に使える部屋を設け、その形状が外観のアクセントになっています。『芽吹きの家』の間取りや外観は敷地条件や要望の中から生まれたアイデアがそのまま形になったわけですが、それぞれに意味のある形となり、私としてもとても愛着のある家になりました。

検討用に制作したスタディ模型

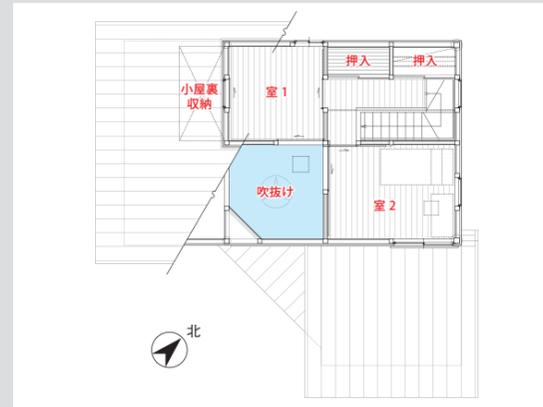


仕様内容

家族構成	家族3人
敷地面積	140.83㎡
建築面積	63.50㎡
延べ床面積	92.07㎡
構法	在来構法 2階建て
屋根	ガルバリウム鋼板 縦ハゼ葺き
外壁	マサ土掻き落とし仕上げ/ガルバリウム鋼板
外部建具	木製オリジナル建具 ナラ ペアガラス+アルミサッシ(ペアガラス)
天井仕上	Jパネル現し 厚36mm 杉板本実張り 厚30mm(化粧野地板現し)
壁	漆喰塗り クロス貼り
床	杉本実板張り 厚30mm
内部建具	オリジナル木製建具
キッチン	オリジナルキッチン
洗面化粧台	オリジナル化粧台
浴室	オリジナル浴室
設備	壁、天井：青森ヒバ 床、腰壁：サーモタイル 200角貼り
設計者	山崎健治
施工	有限会社ころも木造建築研究所
竣工	平成25年6月

敷地条件と要望のバランス。

プランニングに入る前に整理して置かなくてはいけない事が2つ。敷地条件とお施主さんからの要望です。どちらも重要で当たり前の事ですが、大切なのは2つのバランス。どんなに住まい手が望む要望でも敷地に対して無理な計画をしたのでは満足は行く住まいにはならないし、また、敷地にマイナスな条件があっても上手く要望とあえば想像以上に快適な住まいになる事もあります。敷地条件と要望のバランスは設計者にとってとても大切なバランスであり、家づくりの成功の鍵となるのです。



2F 平面図

吹抜けの要望は特に無かったのですが、平屋的なプランを作る中で屋根裏空間を利用しようと考え広間上部に吹抜けを設けました。空間にボリュームが出て、屋根に設けた天窗からの採光も得られて開放的に明るい広間になりました。



1F 平面図

敷地南面に2階建てのお宅があり、日当たりと視線が少し気になるりました。方位に合わせて広間の窓を45度傾ける事で、日当たりと隣家からの視線の問題をクリアし、変化と広がりのある広間になりました。

敷地条件と要望から生まれたアイデアと形

今回の計画はKさんの要望もあり、「平屋的な暮らしのできる間取り」をコンセプトのひとつとして計画しました。子供室と収納のみを2階に配置し、その他の必要な部屋や水廻りは1階にまとめています。これは毎日の動線や将来の暮らしを考えての計画ですが、寝室や和室などを2階に配置したプランと比べると、1階に部屋が集中するので広間などのパブリックスペースが少し窮屈なプランになってしまいます。また、1階に部屋が多いと言う事は、どの部屋にも採光を取り入れたいと考えると部屋の配置に頭を悩ませます。しかし発想を逆に考えると、2階の部屋が少ないと言う事は2階部分を利用して開放的な吹抜け空間を作る事ができます。そしてその上に天窗を設ければ1階に明るい光りを入れる事もできるので、通常の窓だけに頼らなくても十分な採光を確保する事ができると考えました。プランを考え始めた当初は少し難しい計画になるかもしれないと思いましたが、斜め壁を使った視線の広がりだけでなく、吹抜けを利用した縦の広がりも得る事ができて、実際のスペース以上の開放感を感じる空間になったと思います。敷地条件と要望を整理し、最終的には中庭を囲んだ少し変形のL型プランができました。大きな



2階の子供室から広間を眺める。上から見ると45度になった壁と窓の様子がよくわかります。少し変化した内部空間ですが、この変化のおかげで空間を広く感じ、狭からず広すぎずのちょうど良い大きさの広間になりました。斜め壁の部分には壁掛けTVを設置し、ソファークッキングの両方からTVを見る事ができます。



今回の建築は決して余裕のある敷地条件ではなかったと思いますが、Kさんの求める住まいに対してどのような提案ができるか？ また、自分の中にでき上がったパターン的な形に対して、どう言った変化や工夫ができるか？ と言った課題をいただいた家づくりにも感じました。同じ広さの家でもちよつとしたアイデアや工夫で全く違う空間を感じさせる事もできるし、それが奇抜なものではなく、毎日の暮らしをよりスムーズにするための工夫、心地よく過ごすための変化であれば更に豊かな住まいになっていくと感じました。無垢の木や自然素材で建てる木の家のニーズは今後もまだまだ広がっていくと思います。様々な敷地条件や要望にも答えられるよう、今年もいろんな事にチャレンジしていきたいと思っています。

暮らしに心地よい 変化と工夫

無垢の素材と職人の手仕事

木の家を支えているのは無垢の素材と職人の手仕事。コロボの作る木の家は特にこの2つで大部分ができ上がっています。木・土・石・紙・鉄・ガラス。無垢であるから加工し、削り、磨く事ができ、職人の経験と技術を駆使してすばらしい仕上げ材に変化していきます。今回ご紹介する『芽吹きの家』を通して、素材と職人のコラボをお伝えします。

- ① **玄関全景**／家の顔である玄関。家族だけでなく大切な来客などもやってくる場所だからこそ少し力を入れて作りたい空間です。広がりや明るさ、そしてそれぞれに使う素材を吟味し、落ち着いた雰囲気のある玄関としました。
- ② **洗い出し仕上げと式台**／柔らかな表情の玄関土間は豆砂利の洗い出し。細かな石をモルタルに混ぜ、乾き具合を見ながら表面を洗って仕上げます。式台に使った木は山桜。家具や食器などにも使われ、光沢があり少し赤みがかっています。使う程に艶を増し、味わいのある表情に変化します。
- ③ **玄関ポーチ**／床は深草石を混ぜた三和土仕上げ。土の柔らかな表情の中に石を混ぜ、自然な風合いに。外壁は掻き落とし仕上げ。セメントの中に土・砂・砂利を混ぜて塗り、剣山の様な道具で表面を掻き落とします。光の陰影が出て深みのある表情になります。
- ④ **アイアンポスト**／アトリエプラトーさん制作の表札付きポスト。鉄は冷たい印象がありますが、表面を叩いて凹凸を付けたり、角や面にRを付けると味のある表情になり、木の家にとても馴染む素材に変化。今回は屋根部分を開閉し、大きな郵便物も取り出し易いように工夫しました。
- ⑤ **目積畳**／琉球畳の名前で親しまれている縁無し畳。半畳の大きさにし向きを変えて並べるのがお決まりスタイル。光の陰影で市松模様の畳床が楽しめます。

